

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



新たな協働体制を構築しよう

～北秋田市キャリア教育推進研修会～

北秋田市キャリア教育推進研修会が、7月18日に交流センターで開催され、子どもたちの社会的・職業的自立のために必要な教育と、学校・家庭・地域が共に育つための体制づくりについて学びました。

講演では、国立教育政策研究所総括研究官・教育課程調査官の長田徹氏が「大人自身が変化に対応する力」をテーマに、「キャリアとはラテン語で『わだち（車輪の跡）』の意味であり、根本にあるのは、子どもたちが自分の育ったプロセスを好きになること。学級担任や親以外に、本気で向き合う大人と心

が通う体験を数多く経験することが、継続した学習意欲に結びつく」などと語りました。



▲学校関係者や市民が熱心に聴き入りました

盛り上がった文化交流

～合川地区芸文祭～

「第8回合川地区文化交流会」、「第26回合川芸文祭」が、7月6日に合川公民館で開催されました。

文化交流会では「北秋田合川祇園太鼓振興会」による子どもたちの太鼓演奏や、「シャミガールズ」のスコップ三味線、「根森田七福神」の皆さんによる地域の芸能仮装で曲に合わせた七福神の舞いが披露され、詰めかけた観客を魅了しました。

後半の芸文祭では、合川を拠点に活動する団体が、舞踊や民謡、演奏など日頃の練習の成果を堂々と披露して会場を大いに盛り上げました。また、ロビー

には俳句や華道の作品が展示され、多くの人たちが演示の合間にそれぞれの力作に見入っていました。



▲出演者が日頃の練習の成果を披露

阿仁鉦山ゆかりの寺院めぐり

～高鷹大学全体講座「地域探訪」～

高鷹大学の全体講座「地域探訪」が、7月4日、7日、10日の3日間で行われ、阿仁生き生き大学生と交流を深めながら歴史と文化のまちを探訪しました。

参加した受講生は秋田内陸線を利用し、山間の景色や見頃を迎えている「田んぼアート2014」を眺めながら、阿仁合駅に到着。阿仁生き生き大学の受講生と合流し、「阿仁合ぶらぶらガイド」の案内で、かつて産銅日本一を誇り阿仁合の発展を支えた、鉦山ゆかりの歴史ある5つの寺院を巡りました。

また、市の文化財指定の石灯笼や山門の説明を受

け、受講生は熱心にメモをとりながら、阿仁地区の歴史に理解を深めました。



▲法華寺で法話を拝聴する受講生

学びの広場

平成26年度北秋田市文化祭 出演団体・作品の募集

申込文化係 ☎62・6618

平成26年度北秋田市文化祭を次のとおり開催します。

開催にあたり、演示出演団体、展示作品を募集しますので、希望される方は、申込用紙に記入の上、お申し込みください。

【会場・期日】

演示部門 北秋田市文化会館
11月2日(日)～3日(月)

展示部門 鷹巣体育館
11月2日(日)～3日(月)

◇演示出演団体募集

内容 グループによる
生活芸術・舞台芸能

時間 1グループ最長20分まで
申込締切 8月22日(金)

※日程、時間帯については申込時に希望をとりまします。

◇展示作品募集

内容 市在住の個人
及びグループの作品

出品制限 希望のスペースや出展数により調整します

申込締切 9月5日(金)

◇申込方法(両部門共通)

生涯学習課文化係又は各地区公民館に置いてある申込書に記入の上、お申し込みください。



おさるべ元気くらぶ

申込事務局 長岐賢一

☎090・6101・8906

■長岐家の一般公開

江戸末期の1830年に建てられた「七日市の長岐邸(通称おやかたの家)」を見学しませんか。期間中は、案内人が長岐邸をご案内します。
期日 8月13日(水)～15日(金)
時間 10時～16時

「高校生の双方向交流2014」 秋田北鷹高校×三重県相可高校 「HOSプロジェクト」

申込 生涯学習課 ☎62・1130

■「人源輝業セミナー」IN北秋田市

講師 高校生レストランの仕掛け人
岸川政之 氏

日時 8月2日(土) 15時～16時30分

場所 中央公民館 ホール

※入場無料。どなたでも参加できます

■「北秋田市 高校生料理コンクール」
あの高校生レストランがやってくる

若い力による「食」をとおした地域活性化を目指し「公開料理コンクール」を開催します。

日時 8月3日(日) 9時30分～15時

場所 中央公民館
◎先着100人に「ししとうカレー」
を無料提供します。

ふるさとの文化財

77

北秋田市指定無形民俗文化財 (民俗芸能)

○「李岱駒踊り」

◇所在地 北秋田市李岱(合川)

◇管理者 李岱駒踊り会

〈内容〉

駒踊りは、戦国時代の荒々しい騎馬武者の戦いを表現したものと
言われています。

〈起源〉

佐竹侯が常陸(現茨城県)から秋田へ転封になったとき、主君の慰労と崩れがちな武士の士気を高めるために、足軽たちによって披露した道中芸から始まり、「道地村(能代市) ササラ」を習得して伝えられたとされています。現在は獅子踊りがなくなり、駒踊りと奴踊りとなつていますが、獅子は三頭であったと言われていました。お盆以外は踊ることはなく、先祖供養のために演じられ、当初は男性だけの「若勢団」による奉納踊りとして続けられてきました。戦後一時中断したものの青年会に受け継がれ、現在は女性や子ども

の参加を得て「李岱駒踊り会」が中心となって活動しています。

〈構成〉
「ぶっこみ」、「奴踊り」、「駒踊り」の順序で行われます。
ぶっこみ…灯笼・長刀・棒・奴と
続き円陣となる
奴踊り…まわり奴・扇奴・あわ
せ奴など
駒踊り…駒のぶっこみ・さんば・
鎌倉など

〈開催〉
8月13日に集落内で踊られます。
◇第二回、第五回、第七回北秋田市民俗芸能大会へ出演するなど、李岱駒踊り会が保存・伝承のため引き継いでいます。

▽平成10年5月21日市指定文化財
▽資料/北秋田市教育委員会作成
資料、「秋田民俗芸能アーカイブス(国際教養大学調査・作成)」、
李岱駒踊り会聞き取り
▽紹介者/北秋田市文化財保護審
議委員 照内捷二



▲ 李岱駒踊り